

## 聖マリア病院を過去に受診された皆様へ

聖マリア病院では、皆様の診療情報を利用し、下記の研究を実施しております。

研究内容は、社会医療法人雪の聖母会 研究倫理審査委員会にて承認されたものです。本研究の対象者に該当される可能性のある方で、ご自身の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合や、研究について詳細をお知りになりたい場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。なお、解析用のデータが確定（データ固定）している場合は、研究データから情報を削除できませんので、ご了承ください。

① 研究課題	手指基節骨骨折に対するロッキングプレート術後のナックルキャストの導入後の治療成績
②実施予定期間	承認後～2023年12月31日
③対象者	手指基節骨骨折に対してロッキングプレート固定術を施行された患者様
④対象期間	2010年1月～2020年3月
⑤研究機関の名称	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院
⑥対象診療科	整形外科
⑦研究責任者	高島 広樹 (リハビリテーション室所属)
⑧使用する資料等	診療録より下記のデータを調査します。 基本情報：年齢、性別、受傷指、損傷指数、受傷機転、骨折部位、腱損傷、神経損傷・血管損傷の有無と修復の有無、骨癒合時期、骨転位の有無 手術情報：手術方法、手術待機期間、手術時間（駆血時間） リハビリ情報： ナックルキャスト開始時期・装着期間、リハビリ実施期間、外固定抜去時とリハビリ終了時の手指関節可動域、%TAM, MP 自動屈曲, MP 自動伸展不足角度, PIP 自動屈曲, PIP 自動伸展不足角度、治療成績として基節骨骨折はBelskyの評価基準
⑨研究の概要	手指基節骨骨折に対するプレート固定術は強固な内固定であり術後早期よりリハビリが可能である。しかし、手指を伸ばす伸筋腱の癒着や拘縮を来すこともあるため術後のリハビリは非常に重要である。そこで当院では癒着・拘縮予防の目的で術後早期にナックルキャストを装着して頂くことで、良好な可動域獲得を目指している。本研究は、手指基節骨骨折術後ナックルキャストを導入した患者様の治療成績を調査し、当院での訓練の工夫、課題について検討することを目的としています。
⑩研究計画書等の閲覧	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で入手または閲覧出来ます。詳細な方法に関しては下記の問い合わせ先までご連絡ください。
⑪結果の公表	学会や論文などで発表します。
⑫個人情報の保護	個人情報を保護するために責任者を設定します。研究をする際も、個人が特定できる情報は使用せず、独自の番号で管理します。学会等での発表でも個人を特定できる情報は使用しません。
⑬知的財産権	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院に属します。
⑭研究の資金源	なし
⑮利益相反	研究結果に影響を与えるような利害関係はありません。
⑯データの2次利用	本研究で得られたデータ等の2次利用により新たな研究を行う場合は、改めて研究計画書を作成し、再度研究倫理審査委員会の審査を受けます。

⑰問い合わせ先・  
相談窓口

聖マリア病院 リハビリテーション室 高島広樹  
TEL : 0942-35-3322